

世界の星座早見盤

嘉数 次人(主任学芸員)

天体観察の便利グッズといえば、星座早見盤。観察したい日時の夜空にどんな星が見えるのかを簡単に知る事ができる優れモノですね。

先日、天文関係者の研究会に参加したとき、友人が「国際会議でポーランドに行った時に買ってきた」と言って、ポーランド製の星座早見盤を見せてくれました。すると、周囲にいた人たちから、「私もいろいろ集めてますよ」、「海外へ行ったら必ず探します」という話が聞こえてきてビックリ。そういえば海外みやげの星座早見盤を科学館に寄贈してもらうことがありますし、筆者も海外へ行くと本屋などで星座早見盤を探します。どうやら、天文関係者の中には海外の星座早見盤を集めて楽しんでいる人が多いようです。そこで、科学館や筆者の手元にある海外の星座早見盤のいくつかを見ながら、楽しみ方をご紹介します。

星の見え方いろいろ

夜空の星の見え方は、その土地の緯度によって変わります。例えば、りゅうこつ座のカノープスは、日本では東北地方南部より北の地域では見えませんが、沖縄に行くと地平線から10度くらいの高さまで昇ります。そんな違いを星座早見盤でも楽しめます。写真1はイタリアの星座早見盤で、ローマ付近の北緯42度の空を表すように設計されています。写真2はドイツの星座早見盤で、ドイツ中部地域の北緯50度の設定です。両方の写真とも冬の南空の星座を表示していますが、いずれもカノープスは地平線の下に隠れて見えませんね。

反対に南の方に行くと全く変わります。写真3はオーストラリアの星座早見盤です。



写真1(左):イタリアの星座早見盤

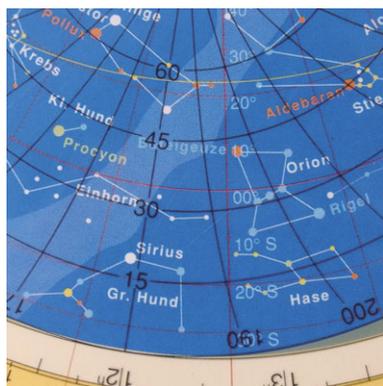


写真2(右):ドイツの星座早見盤

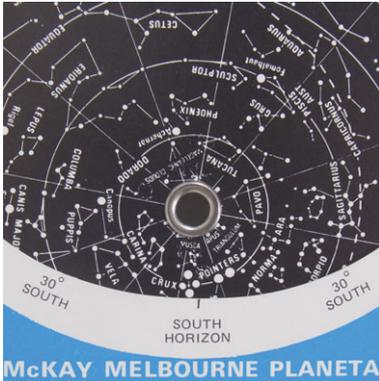


写真3:オーストラリアの星座早見盤。南の地平線すぐ上に、下方通過中の南十字星(CRUX)がある。

写真3:オーストラリアの星座早見盤。南の地平線すぐ上に、下方通過中の南十字星(CRUX)がある。星座早見盤は、それぞれの国や地域の人々が使う物ですから、星座や恒星の名は現地の言葉で書かれています。写真2のドイツの早見盤はドイツ語、写真4のフランスの早見盤はフランス語表記です。また、写真5は台湾の早見盤で、主要な恒星名には伝統的な中国星座体系の名称が使われています。例えば一等星のベテルギウスは「参宿四」、シリウスは「天狼」、カノープスは「老人」と伝統名で記されています。このように星座早見盤を読むとちょっとした語学や文化の勉強にもなり、興味深いですね。

星座のつながり方も

ほかにも、星座早見盤に添えられている使用方法や観察についての解説文などを見ると、言語がわからなくても、図とか天文用語から何となく書いてある事を推測するのも楽しみです。もちろん実用品としても使えますから、もし海外に行く機会があれば星座早見盤をお土産にしてみるのはいかがでしょうか。

南緯35度に設定されています。南半球の国ですから北極星は見え、早見盤のディスクの回転中心は天の南極です。ここでは南十字星は周極星で、一年中地平線の上に顔を出していることがわかります。南極老人星カノープスも一年のほとんどの期間見ることができますから、「一度見たら三日長生きできる」という伝説は通じませんね。

星の名前いろいろ

星座早見盤は、それぞれの国や地域の人々が使う物ですから、星座や恒星の名は現地の言葉で書かれています。写真2のドイツの早見盤はドイツ語、写真4のフランスの早見盤はフランス語表記です。また、写真5は台湾の早見盤で、主要な恒星名には伝統的な中国星座体系の名称が使われています。例えば一等星のベテルギウスは「参宿四」、シリウスは「天狼」、カノープスは「老人」と伝統名で記されています。このように星座早見盤を読むとちょっとした語学や文化の勉強にもなり、興味深いですね。

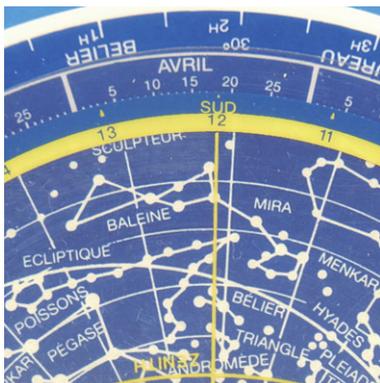


写真4(左):フランスの星座早見盤

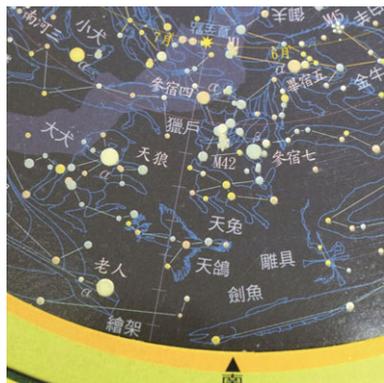


写真5(右):台湾の星座早見盤